

平成 26 年度 すぎなみ大人塾 月・土曜合同成果発表会

日時:平成 26 年 12 月 13 日(土)午後 1 時 30 分～

会場:セッション杉並 第 8・9・10 集会室

総合司会:中曽根社会教育主事 月曜コース学習支援補助者 谷原 博子

生涯学習推進課長 濱美奈子

大人塾はちょうど 10 周年になります。地域には、大人塾の卒業生がたくさんいらっしゃって、いろんな活動をしています。地域で、近所で活躍する皆さんを、先輩方も待っていると思います。自己発見、自分の中にある可能性、これからの自分のやりたいことを、いろんな場所で活かしてください。自分のためだけではなく、ご家族、友人、地域に、先輩に、次世代に広げていただいて、杉並がもっと良い場所になることを願っていますし、大人塾はそのきっかけになると 생각합니다。今後の皆様の活躍を祈念しています。本日は、卒業おめでとうございます。

■月曜コース発表

学習支援者 松田 道雄

職場では名刺を交換して、名前を伝えたり、やっていることを伝えますよね。我々が、大人塾でやっているのは、個性を活かす「みせ」びらきです。名刺ではなく、自分はこんな人ですよ、こんな持ち味があるんだと伝えたり、お互いに伝える場。にじみださないと人と人の繋がりがって、成りづらいですよ。自分をさらけ出して、見せよう。それを、杉並区という大きな場所で見せていこうという趣旨です。結果的に、自分や杉並や社会のためになっていく活動、学習でした。学び合いと地域交流でみがか、発想力と活動力。そして、自分を「みせ」、世の中に役立つ事が生き方の達人です。それでは、今年の学びを発表して頂きます。



○受講生発表

受講生 A

入塾させて頂いて、勉強になって感謝いたします。不謹慎なのですが、たまたま月曜の午前中に時間があつたので申し込みをしたのが、入塾のキッカケです。なんとか本日、卒業できました。感謝しております。

受講生 B

卒業後、朗読、読み聞かせ活動をしていきたいです。

受講生C

仲良くなるために話し合うきっかけに気がつきました。50年前の東京オリンピックを5分間スピーチとして話しましたが、みんながとても真剣にきいてくれたのを覚えています。このことを新聞に投書したら、掲載されました。先輩との話も楽しく、だが生屋学校に向けての仲間作りができたなと思いました。

受講生D：

荻窪教会通りの「みせ準備」で下調べをしました。ここには、商店会の皆さんからお話を聞き、発想がうまれたから、無事にできたのです。マップづくりに集中したことが印象深かったです。女子大生もまじえて、ポスターも作りました。

受講生E：

きらきらチーム6人として、毎日の生活で生まれるキラキラしたものを皆に披露する主旨で活動をしています。ハーブのコサージュ・小物づくり・しそジュース・パンフラワー・水引・ポチ袋づくりで出店しました。子供が一生懸命に作って、世界に一つだけの作品が完成したときの顔が印象的でした。誰でも輝く瞬間があるんだなと思いました。商品を買う方との繋がりも作りたかったので、メッセージカードを用意して、どう使うかも聞いていきました。地域の方を大事にしたかったのも大きいです。小物の売上を東日本復興の義捐金に寄付いたしました。それぞれの方が、自分の持っている小さな力をだしながら、地域とつながっていきました。

受講生F：

チラシを配るときに、折り紙をつけました。受け取った方から、「まあ、ステキ」と返事を頂いたのは嬉しかったです。

受講生G：

水引をつかったポチ袋を作りました。コピー用紙に本物の葉をコピーして作り、当日に結び方を覚えていただきました。基本の結びをその日に覚え、すぐ作り、渡す緊張感。お客を呼び込む係、体験をする係、教える係と分業が自然とできていました。とても楽しかったです。

受講生H：

我々も良い歳なので、体調を維持するのが難しいところもありました。先生から教わった「おすそわけ」。山形のさくらんぼ、おかし、手作り品を渡しあい、和気あいあいと過ごしました。青梅の講座「青梅まちづくり工房」に行ったときに、自然と交流ができることに感謝と驚きを感じました。松ノ木マルシェにも行き、グループでどんなことをやろうかと討議も行います。先生のおかげで熟した大人が、より良く成熟した大人になれました。人生あるかぎり、明日に向かって、何かを作っていきたいと思っています。無事に卒塾できました。どうもありがとうございました。

■土曜コース発表

学習支援者 広石 拓司 (株エンパブリック代表)

2010年より担当してきまして、ソーシャルアクションに始まり、今年は「大人のまちの楽しみ方～自分発！『アソビノベーション』入門」と題して、「遊び」をテーマにしました。大人塾の12回で、ただ遊びましょうと声をかけ、生徒さんは、無事に遊んでくれました。そこから、勝手に学んでくれた形です。今年は、一番、僕が勉強させて頂いたように思います。仕事ばかりしていて、遊びをしていない僕は遊びを教えられないから。自分で遊んで、自分で学んでくださいと言ったら、遊びとは何なのか、現代において遊びとは、遊びの本質とは何かを自ら感じとってくれました。遊びの深い意味を自分が学ばせて頂いた1年だったと思います。中身は、みなさんにお話頂けたらと思います。

・受講生発表

受講生A：

参加した動機は、学生時代の友人や会社の同僚としか話をしていなかったもので、交流を広げたいと思って参加しました。

受講生B：

託児をしてもらえるので、参加しやすかったですし、土曜の時間を有効に使えると思って参加しました。

受講生C：

1～3回目の講座までは、お客さんのように講義を聞いているだけで、特に交流も生まれませんでした。遊びって、なんだろうと疑問に思うだけですぐた感じです。4回目に、自分の好きなものをお互いに知らせ合う「ミニ教室」を開催してから、ぐっと受講生の距離が縮まりました。

受講生D：

ミニ教室では茶道教室を開き、参加してくれた人達と交流しました。お互いの趣味や考えていること、好きなことがわかって、仲良くなり、夏の遊びにもつながっていきました。

<夏休み遊び会議で出たアイデア>

前半戦：

- ・フリーハグ
- ・俺がアイツで、アイツが俺でチャレンジ
- ・沖縄にいったつもりの会

後半戦

- ・カンカン倒し選手権
- ・朝食を食べよう会
- ・杉並語をしゃべろう会



・なみすけを呼ぼう会

受講生E：

「俺がアイツで、アイツが俺で」は、男女を交換して実際にやってみようということです。男性がやるようなことを女性が行い、男性がやるようなことを女性にやってもらいました。男性が女装をすると、どうなるかということで、つけまつげを付けました。

受講生F：

無料で数秒間抱きしめる「フリーハグ」。体験してみたら、とても幸せな気持ちになったので、自分でもやってみようと、フリーハグを企画して、高円寺の駅前で1時間ほどやってみました。冷たい視線に晒されながら、6人の方に行いました。

受講生G：

代田橋の沖縄タウンに行くのですが、あたかも本当の沖縄に行くような準備でいきました。「かりゆし」を着て、添乗員もつけました。15人も集まり、楽しい企画になったのです。

受講生H：

前半戦の反省や楽しかったことなどを振り返り、後半戦を迎えました。ボールを投げて、缶を倒すゲームを企画しました。これを高校野球風に、選手宣誓、入場行進、応援団、音楽もつけて、ゲームをやっていたのです。もちろん、優勝者には胴上げです。

受講生I：

企画が企画を呼んだ形で、受講生から独自の動きもでてきました。企画の1つに「利きコーヒー選手権」があり、これにヒントを得て、大人塾が始まる前に公園で集まって「朝食を食べよう会」を始めました。おかずを持ち寄り、公園で朝食を食べるのです。このあたりから、塾だけでおさまらない遊びになってきました。

受講生J：

秋のまち☆あそび☆コレクションでは、ほとんど準備のないまま、本番を迎えました。しかし、今まで、これだけの遊びをやってきたことと、仲間もいることですから、なんとかなるだろうと進めてみて、結果的に良く出来たイベントになりました。なみすけを呼んでみたり、当日にスケジュールを変えてみたりと柔軟な発想で行ったのは、「遊び」の成果だったのではないのでしょうか。

受講生K：

遊びとは何だろうと考えていたのですが、飲みに行ったり、どこかへ出かけると、遊びにはお金がいると考えていました。でも、実は日常の中に遊びはあるのだなと発見がありました。

受講生L：

塾生だけではなく、他の方とも仲良くなれたので、自分の身近なところで、自分が知らない人、世界があるんだなと感動しました。これからは、こういうことを広げていきたいと思っています。自分の中にも、遊び心があるんだなとも気づきました。

受講生M：

企画をする人だけではなく、企画に乗ってくれる人、盛り上げてくれる人。いろんな人がいるから、遊びができるのだと気づきました。

受講生N：

なんでもできる場を提供して下さったことに感謝します。また、なにをやってもダメと否定することはありませんでした。その点でも、遊びの自由さ、むずかしさ、楽しさなどを自分たちで学べたと思いました。最後に、アソビノベーション宣言として宣言させていただきます。

『宣誓！我々、アソビノベーション参加選手一同は、杉並区の発展のために、これからもずっと遊び続けることを誓います』

平成 26 年 12 月 13 日 ありがとうございます。



当日の参加者をまき込んでのフォークダンス

■特技を活かしたプロジェクト協議 進行：学習支援者 広石 拓司

後半を開始したいと思います。土曜コースの発表がありました。最初の3回まではつまらないという意見がありましたね。講師がリードすると、そうなのかなと思います。10年過ぎると大人塾はより自由になってきたという意見もありました。ここからは、みなさんと一緒に、考えていこうと思います。今、誕生月に分かれて座っていますよね。自己紹介シートに名前と必殺技(=特技)、人生のピークを書いてください。それをテーブルメンバー間で、紹介しあって、最後に、必殺技(=特技)に結びつけたイベントを考えて下さい。

毎月、誰かの誕生月なんだと思いきこせるイベントは、私たちの人間関係の中にある共有する時間を大切にすることになります。

◎ワークショップ：誕生月にちなんだイベントを創ろう！

1月～12月の席を用意、誕生月の参加者は自分の誕生テーブルに着席後、自己紹介シートに名前・必殺技・人生のピーク・誕生月を記入

同じ誕生月でチームを作って、「誕生月にちなんだイベント」うい企画し発表しました。

1月チーム

1日生まれの方もいました。杉並の鍋で、「すぎ鍋」を企画します。何をいれても、杉並で作ればすぎ鍋。出来るまで、なみなみフラダンスをしてみよう。

2月チーム

春になったつもりで「梅花見」。みんなで出れば寒くないということで、花見です。正月残りの餅やバレンタインのチョコを持ち寄って、溶かしてチョコフォンデュ。2月に今年目標をたてたり、冬の寒さを打ち破る企画を外でやってみたいと思います。



3月チーム

東京大空襲、東日本大震災があったので、「地縁の日」を作らないかと意見がでました。世代を超えて知り合うために、卒園卒業式に上の子を預かるような企画ができれば良いなと思いました。

4月チーム

ViVa! ランドセル。昼は、小学校1年生に空のランドセルに町中の人がお菓子をいれてあげる。夜は、ランドセルを大人が借りて、ビールやおひねりを入れてもらう。ランドセルの使い古しを地元の靴メーカーなどに依頼して、リサイクルをしていく。

5月チーム

新緑の季節ですので、「杉並区をハイキングしていこう」と考えました。お寺、公園など見る場所はたくさんあります。楽しく、歩いて行こうと企画します。

6月チーム

祝日がないので、6月6日に「すぎなみ雨に関する芸術の日」を作ります。6日は「芸事こと始め」という日らしいです。杉並には川があるので、傘を持ってファッションショーをしたり、川下りをしたりと企画しました。舟に乗って、雨音やコンサートを聴きながら川を下りたいです。感性を育てる祝日です。

7月チーム

「手づくり縁日」。得意技を活かして、お店を開くのです。夏野菜を提供したり、盆踊り、バルーンを作ったりと、浴衣を着て神社で開催したいです。

8月チーム

目黒のサンマより早く「杉並のサンマ」をやろうと話しました。暑気払いということで、遊びに徹したいです。

9月チーム

「杉並区(区)の日」。「9」や「く」にちなんだモノや人を集める日にしました。美し「く」なったり、値切ってお得くな日だったり、焼きに「く」であったり。ビールを「キューツ」と飲んだりする日です。

10月チーム

ハロウィンもあり、文化の秋でもあるので、「大人アートハロウィン」を企画しました。大人だけがハロウィンをやります。ジャズストリートの前に、阿佐ヶ谷でアートな衣装をしていきます。現代アートでもアニメでも日本画でも。特徴は、額縁を持つことです。

11月チーム

2人しかおりませんでした。正月、節分のようなイベントがない月だと思います。また、11月生まれも少なそうです。そこで、「11月生まれ全員集合の日」を作りたいです。

12月チーム

今年の禊をやりましょうと、「蚕糸の森公園で滝行」を行います。護摩行で、温まることもできます。プロジェクトマップで滝行のフリをすることもできます。若手の芸人に安い金額でレポートをしてもらったり、コスプレも用意します。来年の飛躍のため、滝行を企画しました。

進行：学習支援者 広石 拓司

日々の暮らしは忙しいので、小さなイベントや誕生日を忘れがちです。でも、そういうことに気づき、こういうイベントが増えてきたら、地域や日々の暮らしも楽しくなり、関係性も豊かになりますよね。みなさん、ご参加頂き、ありがとうございました。

■ざっくばらんな情報交換

中曽根聡社会教育主事

みなさん、ありがとうございました。毎月、20日を大人塾の日としたら、皆さんの願いや企画もかないやすいのかなと思っています。そんな風に、卒業の年度だけではなく、年度や地域を超えて、出会う場を作ろうと、大人塾連というネットワークがございます。ゆるやかな活動することをモットーにしていて、毎年5月に、大人塾祭りをやっております。2011年昼コース等卒業の西崎さんを中心に、着々と準備をしております。ぜひ、巻き込み力というより、巻き込まれ力で参加して頂き、遊び心で顔をだして頂けたら幸いです。町の中に卒業生は500人おりますので、意外なつながりを楽しんで頂けたらと思います。

※10周年のサプライズ賞が授与後、くす玉を割りました。



■全体講評 講評 学習支援者 松田道雄

とても楽しかったですね。月曜と土曜が講座の最中でも交流 あったら、すごいことになっていたでしょうね。これからも、交流して爆発力を出してください。すぎなみ大人塾に青梅市が視察しにきて、月曜コースの「講座青梅まちづくり工房」が始まりました。そこに文科省も視察に来ています。杉並の大人塾が他の所に広がって、全国に広がっていくでしょう。人と人が出会って、協力しあえば、創造性と学習能力をずっと発揮できる証拠ですよ。近代社会だと、松下村塾がモデルになったそうです。これからは、すぎなみ大人塾。みなさんから発信されていくと思いますよ。ですから、ぜひ、いろんな人、区民の人、塾生の方と繋がってください。持ち運べる椅子を作りました。杉並バージョンの椅子を作ることだって出来るわけです。自分でマイ椅子をもって、集ったり。売ったら、活動の財源もできますよね。無限のアイデアを楽しく、どんどん実行して行ってください。これからも、多いに楽しみにしています。職員さんや学習支援者を育成するコースを山形で作ります。人生を、社会を創造していきましょう。